

(様式3)

自己評価及び外部評価結果

作成日 平成24年8月6日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0891200065		
法人名	社会福祉法人 翔馬会		
事業所名	グループホーム すぎの木	ユニット名	
所在地	〒313-0502 常陸太田市徳田町307		
自己評価作成日	平成23年12月22日	評価結果 市町村受理日	平成24年8月1日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報 リンク先URL	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0891200065&SCD=320&PCD=08
-----------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成24年2月20日	評価確定日	平成24年7月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

日頃から入居者との係りを最優先にし、一人一人の願いやこだわりを知り、それらが出来る限り実現出来るように職員間で話し合い協力して、一つでも多く叶えられるように頑張っています。
また、自然に囲まれた環境の中、散歩や外出などで地域へ出ていく機会を多く持ち地域の方々と交流する機会をつくっています。
近隣に協力病院があるので、医療面でも安心して利用できる事業所です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

管理者と職員は「みんなに慕われ、頼られ、喜ばれる施設を目指して！！」を目標に、利用者一人ひとりの人格を尊重し、利用者がそれぞれのペースで自由に安心してその人らしく過ごしながら笑いのある生活ができるよう支援している。
職員は利用者の希望にそってドライブや近くのスーパーに買い物に行けるよう日々支援している。
事業所は小学校の跡地に建設されたため地域住民に馴染みが深く、地域の祭りやグランドゴルフ大会は事業所のグラウンドで開催され、利用者も参加したり見物して地域と盛んに交流している。
東日本大震災時に地域住民がストーブを貸してくれたり食糧の差し入れをしてくれたほか、事業所内の草取りや駐車場の砂利入れなど協力関係を築いている。
同一法人の小規模多機能型居宅介護事業所が隣接していることと、代表者が医師であり看取り介護に関する指針を作成していることが利用者や家族等、職員の安心につながっている。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	オープン当初、法人の理念をグループホームの理念とし、それを基に職員と話し合い目標を設定し、ミーティングなどで定期的に確認するようになっている。 来年度はグループホームの理念を職員と話し合いながら作っていくことになっている。	現在は法人の経営理念を事業所の理念とし、事業所独自としては管理者と職員で「目標」を作成している。 月1回のミーティングで理念と目標を確認したり、職員用トイレに掲示して共有している。 設立2年目の平成24年度に向けて管理者と職員で事業所独自の理念の作成を予定している。	事業所は地域密着型サービスの意義を踏まえた支援を実施しており、それらが分かるような理念を作成するとともに、玄関などに掲示することを期待する。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	入居者の方々と一緒に地域の祭りや催し物に出掛けたり、すぎの木付近を散歩し地域住民の方々と交流する機会をつくっている。	事業所のグラウンドを開放し、地域の人々がグラウンドゴルフ大会を開催している。 利用者は子ども会の鳥追い祭りに参加したり見物をして一緒に楽しんでいる。 事業所の夏祭りには地域住民が手伝いに来てくれたり、敷地内の草刈りや駐車場の砂利敷きなどの整備をしてくれている。 併設する小規模多機能型居宅介護事業所に芸能ボランティアが来る時は見物に行くなど、利用者が地域とつながりを持ってよう支援している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	同敷地内事業所に認知症サポート相談窓口が設置されている。運営推進会議で入居者の状況を報告したりし、認知症の方の理解につながるよう努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を開催し、事業所からの報告や地域の情報収集を行っている。 事業所での困りごとを相談し、ご意見をいただき、サービスの向上に努めている。	運営推進会議は市職員や町内会長、家族等の参加を得て2ヶ月に1回開催し、利用者の生活の様子や運営状況、行事などの報告を行っているほか、町内会や事業所の行事の情報交換をしたり、運営に関する話し合いを行い、出た意見等をサービスの質の向上に活かしている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議開催時に事業所からの報告や、ご家族からの意見、苦情等を報告し助言を受けている。また、分からない事は市の担当者を確認している。	管理者は市担当者に電話で相談したり、市職員が運営推進会議で来訪した時に情報交換を行い助言を得るなど、日常的に連絡を取り合い協力関係を築いている。 月1回市が主催するグループホーム連絡協議会に参加し情報交換をしている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会を実施している。また、マニュアルを基に職員に周知し身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	事業所は身体拘束や行動制限を行わないこととし、定期的に研修や勉強会を開くなどで全職員が身体拘束の内容とその弊害を理解している。 身体拘束排除に向けた研修の実施記録やマニュアルを作成し、万が一身体拘束をする場合に備えて同意書や経過観察記録、検討記録等の書類一式を整備している。 管理者は研修会の時だけでなく、日々のサービスの中でも身体拘束をしないケアに関しての教育を実践し、玄関や通用口も日中は施錠していない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を実施している。また、職員のストレスや不満を軽減するために、管理者の方から職員の話をよく聞くように努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会を実施している。また、管理者は入居者や家族からの申し出や、状況を見て、必要があればパンフレットなどを活用し制度の紹介、説明を行っている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は、重要事項説明書に沿って、分かりやすい言葉、表現に気をつけて説明を行っている。また、不明な点、疑問点も同時に確認しながら、説明を行っている。利用料の変更などがあった場合は、変更の内容を説明し同意書の取り交わしを行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見、苦情などについて事業所内にご意見箱を設置し、苦情窓口についての案内も掲示し契約時に説明をしている。また、顔を合わせた時にはこちらから入居者、ご家族の意見を伺っている。苦情やご意見に関しては法人内の苦情委員会で改善等について話し合い、第三者委員や運営推進会議で報告している。	利用者からは日常の問いかけや会話の中から、家族等からは来訪時や電話連絡時に話を聴くほか、管理者は毎月請求書を自宅に届ける時に意見や要望を聴くよう努めている。玄関に意見箱を設置するとともに重要事項説明書に事業所と第三者機関の相談受付窓口を明記している。 出た意見等は全職員で話し合い改善に取り組むなど、運営に反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者が職員からの意見を聞く機会を設けている。また、月1回のミーティングでも、職員が意見や提案を行える機会を設け、年1回、または必要時に管理者が面接を行い職員の意見が反映されやすい環境づくりに努めている。	管理者は職員に日々声をかけたり個人面談を実施し、勤務体制の希望や疑問点のほか悩み事などを直接聴く機会を設けている。 職員の提案で使い易い職場の調理器具を購入したり、棚を設置して働き易い環境づくりに努めるなど、出た意見等を運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年度ごとに職員は自己目標の設定、自己評価を行い、管理者は人事考課で評価し昇給や昇進に反映している。また年1回の管理者との面接にて意見、要望を聞き取りしている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人、新任職員には研修プログラムに基づいて研修を行っている。また、法人、事業所内での勉強会を実施し、スタッフ全員が外部研修に参加できるように努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	市のケアマネージャー連絡会と地域密着型サービス協議会、グループホーム連絡協議会に入会しており、定例会や研修会を通して、情報交換等を行いサービスの向上に努めている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用開始前に必ずご本人にお会いし、今までの生活や現在の困りごとなどを聴き、ご本人が不安や不信感を抱かないように注意している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス利用開始前に必ずご家族にお会いし、今までの生活や現在の困りごとなどを聴いたうえで、事業所のサービス内容を説明し、施設内の見学を勧めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談内容によっては、様々な選択肢があるということを説明し、その時、最も必要とされるサービスの紹介を行っています。また、入居される場合のご本人の不安な気持ちに配慮し、なじみやすい環境づくりをご家族にも協力していただいている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者が出来る事を見つけて、それを生かし自信を失わずに生活してもらえるように支援しています。家事や畑仕事を一緒に行ったり、地域の事や昔の事を教えていただいたりし関係づくりに努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者とその家族の関係や、気持ちを傾聴し、悩みや喜びを共感できるよう、入居者の日頃の様子を報告したり、相談し協力していただきながら、本人のより良い暮らしを考えるようにしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親戚や近所の方の面会の受け入れや、電話での問い合わせについて、ご家族に承諾を得て対応している。入居者の馴染みの商店や床屋を可能な限り把握し関係が途切れないよう支援を行っている。また、同法人他事業所の利用者と交流する機会を設けている。	利用者が馴染みの場所に出かけられるよう初詣を始めとして花見などを年間行事計画に組み込んでいる。 利用者は職員と一緒に馴染みの地元スーパーに食材の買い出しに出かけている。 職員は利用者の希望にそって行きつけの店での買い物や床屋を継続して利用ができるよう同行している。 家族等の承諾を得て利用者の友人や知人の面会を支援し、利用者がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が継続できるように努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係を把握し、席の位置に配慮している。職員は入居者の間に入り話題の提供を行い皆が楽しめるようにサポートしている。また、耳の遠い方も会話に交じる事が出来るように配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現在契約終了者はいないが、必要に応じて相談、支援を行うことを重要事項説明書にて事前に説明している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居者の思いや意向を尊重し、希望に対して否定せず、出来る限り実現できるように努めている。把握が困難な入居者には、表情の変化などに注意し、思いや意向を読み取り対応するように努めている。	職員は利用者の日々の行動や会話、表情などから思いや意向の把握に努めている。意思疎通が困難な利用者の場合は、表情などから意向を把握するように努めているが、日々のケアで把握した利用者の情報を記録に残すまでには至っていない。	日々のケアで職員が把握した利用者の履歴及び趣味、友人や知人との関係、得意なことなどを記録して全職員で共有し、より一層利用者の思いにそった生活ができるよう支援することを期待する。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族からだけでなく、利用していた事業所やケアマネージャーから情報を出来る限り収集し、本人との会話の中から今までの暮らし方を把握できるように色々な面からお話しをするようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	それぞれの1日の過ごし方を観察し、本人の出来る事や出来ない事、心身状態が把握できるように努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者、家族双方の意向を考慮し、サービス担当者会議やモニタリングを行い、介護計画の作成を行っている。また、入居者の様子を職員から聞き、ケアプランに反映させている。	介護計画は3ヶ月から6ヶ月の設定期間に合わせて見直すとともに、管理者は要介護認定更新時に合わせて利用者の自宅を訪問し、担当者会議を開催して利用者や家族等の希望を聴き介護計画を作成している。利用者の心身の状態に変化が生じた場合は随時現状に即した介護計画に見直し、利用者や家族等の確認を得ている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日頃の様子や状態、気づきを個人記録に記入し、特に気になる事や、重要な事は申し送りノートを活用し情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の思い、希望に配慮し、自宅や畑の様子を見に行くなど、可能な限り柔軟に対応できるように努めている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地区の民生委員や班長に見守りや緊急時の連絡などの協力を依頼している。また、地域の保育園や中学校と行事を通し交流している。ボランティア団体による催しものも楽しんでいただいている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的な受診は家族が付き添っている。通院困難な方は在宅診療などの説明を行っている。また、緊急時の受診は状況に応じ対応している。	利用者や家族等が希望する医療機関での受診を支援し、受診は家族等の付き添いを基本としている。 管理者は利用者の健康状況を電話で担当医に知らせるとともに、受診後は結果を記録している。 緊急の場合は家族等に電話で連絡し、職員が同行して受診をするとともに、結果を家族等に報告している。 通院できない利用者には訪問診療を支援している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の健康状態や身体状況の観察に努め、状況に応じ、契約している訪問看護ステーションの看護師や、協力病院に報告する体制が整っている。また、契約している訪問看護ステーションの看護師がすぎの木に来た際も情報交換や相談を行っている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者が入院した場合、職員が面会したり、必要に応じ食事介助等に向き、情報交換や状況把握に努めている。また、入居者の受診の時に病院関係者との情報交換や相談をし、良い関係作りに努めている。	/		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「重度化した場合及び看取り介護に関する指針」「医師や医療機関との連絡体制」についてご家族に説明し、同意を得ている。また、その際重度化した場合や、終末期のあり方を親族で話し合っただけのように説明している。マニュアル等整備し、勉強会を行っている。	「利用者の重度化した場合及び看取り介護に関する指針」や「医師や医療機関との連携体制」を明文化し、利用者や家族等に説明するとともに同意を得ている。 看取りに関するマニュアルを作成するとともに職員研修を実施し、看取りの体制を整備している。	/	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人や事業所内での勉強会を開催しており、緊急時の対応マニュアル等も整備している。	/		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を計画し実施している。地区の消防団や近所の方々にも避難訓練実施の案内をすることで、参加協力してくれている。また、事業所内に保存食、飲料水の備蓄、自家発電機を備えている。	年2回通報・消火・避難の総合訓練を実施しているほか、年1回夜間想定避難訓練を実施している。 避難訓練実施記録を作成するとともに訓練後の反省点及び課題を全職員で話し合い記録している。 隣接している同一法人の小規模多機能型居宅介護事業所と災害時の協力体制を構築するとともに、避難訓練前に近隣住民にチラシを配布し参加を得ている。 緊急連絡網を作成しているが、掲示するまでには至っていない。 米や缶詰、粥、レトルト食品、飲料水などを3日分備蓄しているほか、懐中電灯や衛生用品などを準備するとともに自家発電装置を備えている。	災害時に備えて緊急連絡網を電話付近に掲示することを提案する。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシー保護等についての勉強会を開催している。個人情報の保護に関しては、入居者及び家族と同意書の取り交わしをしている。また、入居者の人生を知り、尊敬の気持ちを持って接する事に努めている。	プライバシー保護に関する勉強会を実施しており、管理者や職員は利用者を尊敬し利用者への呼び方や言葉遣いなどに配慮するとともに一人ひとりの尊厳を大切に考え支援している。 利用者や家族等に個人情報の利用目的を書面で説明するとともに、写真の掲示や広報誌への掲載の同意を得ているほか、利用者に関する問い合わせや面会の対応方法を書面で確認している。 個人情報に関する書類は書類庫ロッカーに保管して情報漏洩に留意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々入居者とゆっくり接する時間を持てるように努め、入居者側からも希望が出やすい雰囲気作りをしている。また、入居者の状態や心理に合わせて、方法を工夫し自己決定の機会を多く持てるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	最低限の業務を残し、その日の入居者の思いや希望、天気や行事ごとなどを考慮し、柔軟に対応するように心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望に応じ訪問理容サービスの支援を行っている。また、衣類等も季節や気温、こだわりに十分配慮し準備、調整のお手伝いをしている。希望があれば、衣料品店への付き添いを行っている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	すぎの木の畑で入居者が作った野菜や、地元の食材を使い、味見から調理、配膳など入居者が出来る事を生かして食事作り、片付けをしている。献立は準備しているが、その日の希望を聞き、作るようにしている。職員も一緒に食卓を囲み食事をしている。	職員が献立を作成し、事業所の畑で利用者と職員が栽培した野菜や地元の食材を使い食事を作っている。 利用者は能力に合わせて職員と一緒に調理や配膳、下膳をしている。 献立以外にも利用者の希望に合わせた食事の提供や行事食及び外食を取り入れ、食事が利用者の楽しみとなるよう支援している。 利用者の嚥下機能に合わせた形態の食事を提供するとともに、職員は利用者と同じテーブルに着き談話しながら楽しく食事ができるよう一緒に食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	嚥下や咀嚼状態に合わせた食事、水分形態を工夫している。摂取量が少ない時は、記録に残し、好みむものを提供できるように努めている。また、必要があれば毎回の摂取量を記録し把握できるよう努めています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯ブラシや口腔ケア用品をそれぞれの入居者の居室の近くや使いやすい洗面台に置き、毎食後の口腔ケアに努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	入居者の排泄リズムの把握と身体状況に合わせた排泄介助を行っている。日中はほとんどの入居者がトイレで排泄できている。	職員は排泄チェック表を活用し利用者の排泄パターンを把握してトイレ誘導を行い、日中は殆どの利用者がトイレで排泄ができるよう支援している。 トイレでの排泄や排泄の自立に向けた職員の適切な支援により、入居時に紙パンツとパットを使用していた利用者が布パンツに改善している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の有無を毎日確認している。便秘傾向にある入居者に対しては、水分補給や適度な運動の機会を提供し、食事でもイモ類や果物等のメニューを取り入れている。また、トイレに座る機会を持ってもらえるように努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	1日の入浴の予定は立ててあるが、入居者の希望や状態によりその都度対応できるようにしてる。入浴の時間は決めずに、なじみの生活リズムに合わせて入浴できるようにしている。入浴が困難な方も全身清拭や手浴、足浴等行い、身体清拭保持と気持ち良さが提供できるよう努めている。	利用者の希望や状況に応じて毎日、いつでも入浴できるように支援をしている。入浴が困難な場合は全身清拭や手浴、足浴を実施している。柚子湯や菖蒲湯、リンゴ湯などで季節を感じながら入浴できるように支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間、不安で眠れない入居者には職員が付き添い、安心して休める様に努めている。日中は本人の希望に合わせて自室や和室などでゆっくりできるように声掛け、配慮をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者の薬剤情報は現場で職員がいつでも確認できるようになっている。薬の服薬、管理についてはマニュアルを作成して事故防止に努めている。また、主治医や訪問看護師からは薬の副作用や注意点についての助言を求め、症状の変化なども相談しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者の出来る事を生かし、女性には家事や裁縫、男性には鍵の施錠の確認や力のいる簡単な調理の手伝いなどを行ってもらっている。また、外出や散歩、畑仕事や草引きなど一人一人の習慣や楽しみに合わせて、職員が付き添い行うようにしている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	出来る限り入居者の希望に沿って、1日の予定を決める様に努めている。会話の中で出た希望で当日困難なものは、予定を決めて後日行うように努めています。親戚やご近所のお宅などに関しては、本人の希望として家族にお伝えしている。	職員は利用者の希望にそって散歩や近くのスーパーへの買い物、ドライブに日々出かけている。 初詣や花見など利用者の希望を聞きながら外出し、四季の移り変わりを肌で感じたり気分転換ができるよう支援している。 利用者が親戚や利用者が住んでいた近所の知人宅への訪問を希望する場合は、家族等に伝えている。 利用者の希望で利用者の畑に行って一緒に作業をして来ることもある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者、家族の希望によりおこずかい程度の現金の所持及び事業所でのお預かりをしている。買い物などに行く際は、お預かりしているお金を本人に渡して、お買いものしてもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があればいつでも電話が使用できる。親戚の方などから手紙があった場合ご本人に声をかけて、お返事を出すお手伝いをしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	普通の家のリビング、茶の間のような環境を意識して環境づくりをし、テーブルにはポットとお茶のセットを置き、好きな時に利用できるようにしている。また、一人一人の希望や好みに合わせて柔軟に対応している。	共用空間は清潔に保たれ、居間の大きなガラス戸から差し込む陽光をカーテンで調整している。 壁面には行事を楽しむ利用者の写真やちぎり絵の作品が飾られている。 障子と襖で仕切られた広い和室には大きな炬燵と和風の家具が配置され、茶の間のような雰囲気と心地よい居場所となっているが利用者には活用されていない。 共用空間のダイニングテーブル以外に、利用者が寛げる場所を確保するまでには至っていない。	和室を活用したりソファを設置して、利用者が一人になったり複数で寛げるような居場所づくりを期待する。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングと和室にそれぞれテレビを置き、ソファや座椅子でそれぞれのペースでくつろげる環境を作っている。また、入居者同士の相性に配慮し、席やテーブルの配置を行っている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使い慣れた家具や毛布などを居室に自由に持ち込んでいただいている。居室の整理などは入居者と一緒に行い、過ごしやすい生活感のある居室づくりに努めている。	居室のドアはステンドグラスや和風、洋風など部屋毎に違うドアで、一般家庭と同じ雰囲気となっている。 利用者は居室に使い慣れた家具や布団、テレビを持ち込んだり手芸品や工芸品、家族の写真を飾っており、居心地よく暮らせる場所となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来る事、分かる事に関してはそっから見守っている。また、日々の観察から手助けや工夫によりできる事を増やしていけるように努めている。		

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいの <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいの <input type="radio"/> 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/> 1, 毎日ある <input type="radio"/> 2, 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3, たまにある <input type="radio"/> 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2, 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3, 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ毎日のように <input type="checkbox"/> 2, 数日に1回程度ある <input type="checkbox"/> 3, たまに <input type="checkbox"/> 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="checkbox"/> 1, 大いに増えている <input type="checkbox"/> 2, 少しずつ増えている <input type="checkbox"/> 3, あまり増えていない <input type="checkbox"/> 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての職員が <input type="checkbox"/> 2, 職員の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 職員の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての家族等が <input type="checkbox"/> 2, 家族等の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 家族等の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない

(様式4)

目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホームすぎの木

作成日 平成24年7月25日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	13	災害時に備えての緊急連絡網が掲示されていない	緊急時、緊急連絡網をすぐに確認出来るようにする	緊急連絡網を電話の脇に掲示する	達成済み
2	1	地域密着型サービスの意義を踏まえた理念が作成されていない。また、家族等が見れる位置に理念の掲示がされていない	地域密着型サービスの意義を踏まえて理念を作成して、玄関に掲示する	平成23年3月、職員間で意見を出してもらって、理念を作成し、玄関脇に掲示する	達成済み
3	9	職員が把握した入居者の履歴や趣味、友人や知人との関係、得意なこと等を全職員で共有できるような記録が無い	職員が把握した入居者の様々な情報を共有し、すぐに見直せるような記録をとり入れる	職員が把握した入居者の履歴や趣味、友人や知人との関係、得意なこと等を全職員で共有できる記録を整備し利用者担当の職員を中心にまとめていく	平成24年12月
4	19	利用者が一人になったり複数で寛げるような居場所が無い	利用者が寛げる場所を作る	テーブルやソファ、家具の配置を利用者の様子を見ながら随時見直し、くつろげる環境を整えていく	平成24年12月
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。